

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)	
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (年度)			
7	出産・子育て支援プロジェクト	様々なニーズに対応する保育環境の整備	教育・保育施設の整備	→										保育所待機児童数	42人 (H27)	31人 (H28)	23人 (H29)	38人 (H30)	29人 (H31)	27人 (R2)	16人 (R3)	0人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童数を減らすため、引き続き重点的に取り組むことが必要。 チビッコホームの定員拡大の取組みにより、待機児童の減少の効果が伺えるため、引き続きの取組みが必要。
			民間保育施設の運営支援	→										病児保育施設の利用登録者数	265人 (H27)	265人 (H27)	318人 (H28)	303人 (H29)	307人 (H30)	289人 (R1)	152人 (R2)	350人 (R4)	
			病児保育事業の実施	→										チビッコホーム待機児童数	216人 (H27)	109人 (H28)	83人 (H29)	106人 (H30)	97人 (R1)	76人 (R2)	40人 (R3)	0人 (R4)	
			チビッコホーム増設による定員拡大	→																			
8	教育環境充実プロジェクト	児童生徒への支援体制の充実	心理カウンセラー(5名)の配置	→										小学校における不登校児童の割合	0.6% (H26)	0.7% (H27)	1.0% (H28)	1.1% (H29)	1.0% (H30)	1.1% (R1)	1.3% (R2)	0.4% (R4)	<ul style="list-style-type: none"> 基準値よりも低く、低下傾向が続いており、効果のある追加的な取組が必要である。 追加的な取組として、令和元年度に不登校児童生徒支援員の配置の取組を実施したが、不登校児童生徒の割合の改善には直結していないものの、いじめ解消率については数値上は改善されており、今後は同一基準に基づいた実績の推移がどのように変化するか注視する必要がある。 また、不登校児童への支援としてタブレット端末等のICT機器を活用した在宅での学習支援やコミュニケーションも可能であると思われる。
			エスパル指導員の配置	→																			
			スーパーバイザー(精神科医)の配置	→																			
			PTA協力者	→																			
			スクールロイヤーの配置	→										中学校における不登校生徒の割合	4.1% (H26)	4.4% (H27)	4.5% (H28)	5.4% (H29)	5.8% (H30)	5.9% (R1)	5.9% (R2)	2.6% (R4)	
			スクールカウンセラーの配置	→																			
			スクールソーシャルワーカーの配置	→																			
			子ども支援員の配置	→										小中学校におけるいじめ解消率	72% (H26)	94% (H27)	84% (H28)	36% (H29)	53% (H30)	52% (R1)	81% (R2)	85% (R4)	
			幼稚園支援コーディネーターの配置	→																			
			スクールサポーターの配置	→																			
不登校児童生徒支援員の配置	→																						
生徒指導支援員	→																						
9	教育環境充実プロジェクト	特別支援教育の充実	特別支援教育支援員・介助員の配置	→										小中学校における支援学級等支援者(介助員+特別支援教育支援員)の数	26人 (H27)	26人 (H27)	34人 (H28)	34人 (H29)	35人 (H30)	40人 (R1)	45人 (R2)	60人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム視点でのKPI設定の検討も必要ではないか。(例 支援を必要とする児童・生徒に良い変化が見られたことがわかるような指標の設定など) 支援が必要な児童生徒数に対する支援員等の配置人数の比率を、充実度を図る指標とすることも可能と思われる。
			巡回相談体制充実	→																			
10	教育環境充実プロジェクト	外国語教育の充実	小中学校における英語指導の推進のため、外国人指導助手(ALT)、外国語活動補助員(小学校)を派遣	→										英語の学習が好きと答える児童(小学生)の割合	33.9% (H25)		45.6% (H28)	41.0% (H29)	44.2% (H30)	56.6% (R1)	実施なし	43.5% (R4)	意見なし
			市実施研修にて、授業づくり・評価に関する講義・実践共有を有識者を招いて実施	→										英語の学習が好きと答える生徒(中学生)の割合	21.4% (H25)		26.4% (H28)	27.0% (H29)	29.2% (H30)	22.8% (R1)		31.5% (R4)	

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間									KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)					
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (年度)						
11	教育環境充実プロジェクト	学校園におけるICT環境の構築	小・中学校情報システムの構築	→									小中学校1クラスあたりのICTを活用した授業の時間数(週平均)	約1時間(H26)	1.37時間(H27)	1.67時間(H28)	1.85時間(H29)	2.99時間(H30)	4.22時間(R1)	4.89時間(R2)	5時間(R4)	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台の端末が整備されるなどKPI達成に向け実績値が着実に上昇している点が評価できる。 令和2年度に一人1台のタブレット端末が整備されたことから、学校での学習活動では当然に週1回以上使用することになると思われるため、「自宅での学習活動で」コンピュータ等を使用したと答える児童・生徒の割合に変更、もしくは追加する必要があるのではないか。 令和4年度の校務ICT化に向けて、事務負担軽減等のアウトカム指標の検討が必要。 タブレット端末は、持ち帰りによる学習や保護者との連絡等にも活用可能であることから、効果的な運用が必要。 タブレット等の整備により、可能性はかなり広がる。タブレットがあれば、本としての教科書がいらぬなど、大人がビジネスで使うように自由に使えればいいのではないかと。ただ操作するだけでなく、プレゼンなど実用的な活用が求められる。 教える側の教員がどう使えるかも重要である。今では、子どもの方が使いこなすのが速い。教員側の習熟度を向上させることは言うまでもなく必要である。 タブレットやオンラインを使った教育を考える上でのポイントは3つある。1点目:オンラインの活用は、学習意欲がある子どもには有効だが、関心がない子どもにはむしろ逆効果であるということ。対面であれば子どもにとって気持ちよくなるが、単に画面を見ているだけではやる気が削がれる子どももいる。 2点目:積極的な子どもに対して、そのレベルに合わせてしっかりと教材を提供できるかという課題である。これには、向き合えない子どもをどうケアするかという一方の課題が同時に包含されている。しかし、1クラス約40人という規模である小中学校ではなかなか難しく、教員の加配などが必要になってくる。 3点目:家庭における環境であり、家庭でオンライン環境が整っているかどうか、親がトラブル時に対応できるかということが求められる。親が対応できるかどうかで、子どもの関心も変わってくる。また、学習習慣の定着とも関わりがあるため、そのような視点でも検討が必要。通信環境はもはやインフラであり、それを家庭で構築できるかが問われている。 タブレット等が1人1台整備され、今後家庭での活用も進めていくことから、家庭での学習習慣にどう影響を与えるか、両者の関係性を分析しないと分からないが、おそらく有意な関係性があると思う。 				
			GIGAスクール構想に基づく小・中学校ICT環境の整備										コンピュータ等のICTをほぼ毎日又は週1回以上使用したと答える児童・生徒の割合【小学校】						23.8%(R1)	100%(R4)						
			小・中学校におけるICTを活用した情報教育の研究・推進										コンピュータ等のICTをほぼ毎日又は週1回以上使用したと答える児童・生徒の割合【中学校】							24.6%(R1)	100%(R4)					
			ICT機器を活用した授業の支援																							
			子どものICT機器操作支援																							
			ICT機器を活用した授業の研修・教材作成																							
12	教育環境充実プロジェクト	中学校給食の実施	中学校給食の実施															0件(H30)	0件(H30)	0件(R1)	0件(R2)	0件(R4)	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム視点でのKPI設定の検討も必要である。(例.給食の満足度をはかるアンケートの実施など) 			
			地場農産物利用のための調整																							
13	教育環境充実プロジェクト	市立産業高等学校市民公開講座(アーチェリー講座)の実施	市民公開講座(アーチェリー講座)の実施															-	7人(H27)	15人(H28)	20人(H29)	20人(H30)	12人(R1)	開催なし	20人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> アウトカム視点でのKPI設定の検討も必要ではないかと。(例.講座参加者(小中学生)が講座終了後もアーチェリーに継続して携わる(予定含む)割合など)

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)				
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (年度)						
19	まちの拠点形成プロジェクト	公共交通のあり方を検討、利便性を向上	路線バス・コミュニティバスにICカード等導入支援	→											市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	3,827人 (H26)	3,861人 (H27)	3,691人 (H28)	3,612人 (H29)	3,298人 (H30)	3,159人 (R1)	2,524人 (R2)	4,100人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> 交通まちづくりアクションプランの策定、地域運営のコミュニティ交通に対し支援を行うなど事業展開をはかっている点が評価できる。 生きがいを感している65歳以上の市民の割合というKPIでは、バスの内容について効果を測るのは難しいのではないかと。 詳細の取組など、交通まちづくりアクションプランの内容が充実すれば、それに伴って効果的なKPIを設定すべきだと考える。 分かりやすいものであれば、バスの対人口カバー率はどうか。バスは南海バスやローズバスであり、市街地は概ねカバーできるという結果になると思うが、除外される地域は阪和線よりも山手になってくると思う。また、カバー率では鉄道を除くべきだと思うが、アクションプランの中で何を軸に公共交通を組み立てるのかというところを定めると思うので、その軸や鉄道とバスとの関係を踏まえて検討していくべき。 バスの路線自体はあっても、運行本数が少ないという課題については、利用者の密度も重要であり、カバー率との組み合わせで考える必要がある。また、到達可能性のような視点でも検討が必要だと思う。 		
			法的要件に適合した新たな会議体の設立(附属機関の公共交通検討委員会を改組)	→												生きがいを感している65歳以上の市民の割合	52.6% (H27)	51.5% (H28)	47.3% (H29)	49.3% (H30)	50.8% (R1)	44.6% (R2)	49.1% (R3)		49.3% (R4)	
			交通まちづくりアクションプラン策定	→													高齢者が安心して生活できていると感している市民の割合	18.1% (H27)	20.7% (H28)	21.1% (H29)	22.2% (H30)	19.9% (R1)	25.6% (R2)		22.0% (R3)	22.2% (R4)
			交通まちづくりアクションプランに基づく事業の実施(ローズバスダイヤ改正、利便性向上等)	→																						
20	まちの拠点形成プロジェクト	JR阪和線東岸和田駅付近の鉄道高架化の実現	上下線高架化に向けた取組の実施	→											踏切による交通遮断時間(市道並松上松線)	9.8時間/日 (H21)	6.7時間/日 (H26 下り線 高架後)	6.7時間/日 (H26 下り線 高架後)	0時間/日 (H29 上り線 高架後)	高架化により遮断時間は解消			0時間/日 (H29)	<ul style="list-style-type: none"> ハード面の整備事業は、事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。 		
			鉄道高架化に伴う付属街路及び周辺道路の整備	→											踏切による交通遮断時間(府道岸和田港塔原線)	9.6時間/日 (H21)	5.2時間/日 (H26 下り線 高架後)	5.2時間/日 (H26 下り線 高架後)	0時間/日 (H29 上り線 高架後)				0時間/日 (H29)			
			鉄道高架化に伴う付属街路事業用地の買収	→											JR阪和線東岸和田駅周辺道路等の整備率	70% (H30)				70% (H30)	90% (R1)	93% (R2)	100% (R3)			
			付属街路事業用地の買収率	→											41.8% (R1)				41.8% (R1)	74% (R2)	80.0% (R4)					
21	まちの拠点形成プロジェクト	田治米畑町線の整備	民間事業者等の誘致(条件整理等)	→										起点から終点までの到達時間(自動車)	6分(2.5km): 25km/h (R2)				6分(2.5km): 25km/h (R2)	1分(0.73km): 40km/h (R7)	<ul style="list-style-type: none"> ハード面の整備事業は、事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。 					
				→										起点から終点までの到達時間(歩行者)	19分(1.5km): 80m/min (R2)				19分(1.5km): 80m/min (R2)	9分(0.73km): 80m/min (R7)						
22	まちの拠点形成プロジェクト	春木駅・久米田駅周辺の利便性を向上	(春木駅)周辺まちづくり基本構想の策定	→										春木駅の1日平均乗車人員	7,558人 (H26)	7,662人 (H27)	7,614人 (H28)	7,580人 (H29)	7,557人 (H30)	7,582人 (R1)	6,030人 (R2)	7,640人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> ハード面の整備事業は、事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。 駅周辺の利便性の効果測定にあたって、各駅の乗車人数というKPIでは評価が難しいかと。 駅周辺の安全確保や踏切の混雑緩和を目指している側面があり、少なくとも乗車人数ではなく、周辺道路の渋滞の解消などを指標として設定してはどうか。 			
			(春木駅)基本構想に基づく事業の実施	→																						
			(久米田駅)周辺まちづくり基本構想の策定	→												久米田駅の1日平均乗車人員	6,899人 (H26)	6,926人 (H27)	6,827人 (H28)	6,823人 (H29)	6,674人 (H30)	6,613人 (R1)		5,286人 (R2)	6,970人 (R4)	
			(久米田駅)東西アクセス改善基本構想の策定	→																						
23	まちの拠点形成プロジェクト	福祉総合センター敷地の利活用検討	有効活用のための条件整理等	→										有効活用する件数	0社 (R1)				0社 (R1)	0社 (R2)	1社 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> 民間と協働することに寄与しているため、継続的な取組が必要。 				
				→																						

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間									KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値(H27)	実績値(H28)	実績値(H29)	実績値(H30)	実績値(R1)	実績値(R2)	目標値(年度)	
24	まちの拠点形成プロジェクト	グリーンビレッジ構想の推進	岸和田グリーンビレッジ実施計画策定	→															まちづくり(育て)活動実施回数 2回(H26) 4回(H27) 5回(H28) 4回(H29) 4回(H30) 3回(R1) 3回(R2) 35回(R4累計)	意見なし	
			岸和田グリーンビレッジ推進事業(人材ネットワークの育成、地域資源を活かした産業の創出、拠点を支える基盤づくり)	→																	まちづくり(育て)活動参加団体数 10団体(H26) 10団体(H27) 4団体(H28) 7団体(H29) 4団体(H30) 0団体(R1) 0団体(R2) 50団体(R4累計)
			市外からの参画団体(企業・世帯)																		4団体(H26) 5団体(H27) 2団体(H28) 2団体(H29) 5団体(H30) 3団体(R1) 0団体(R2) 22団体(R4累計)
			農業体験参加者数																		10人(H28) 10名(H29) 0人(H30) 0人(H30) 10人(R1) 10人(R2) 60人(R4累計)
			竹有効活用に係るネットワーク組織への参画企業・団体数															14団体(H28) 14団体(H29) 0団体(H30) 0団体(R1) 4団体(R2) 15団体(R4)			
25	まちの拠点形成プロジェクト	丘陵地区内に農業拠点の形成	次世代施設園芸拠点構想の策定	→															農業参入希望者数(農地購入または賃貸借) 70件(H27) 77件(H28) 85件(H29) 93件(H30) 96件(R1) 103件(R2) 106件(R4)	・工事終了後に効果発現が期待できるのであれば、工事終了後のアウトカム視点でのKPI設定が必要である。(例.農地売買等の件数など)	
			岸和田丘陵フードバレー計画の推進	→																	
			補足水源調査	→																	
			竹木の有効活用方策検討	→																	
26	まちの拠点形成プロジェクト	ゆめみヶ丘岸和田における協働のまちづくり	各種イベント等の実施															ゆめみヶ丘岸和田における住民数 0人(R1) 0人(R1) 123人(R2) 350人(R4)	・ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。		
27	まちの拠点形成プロジェクト	木材港の充実	木材コンビナート及び貯木場への立地ニーズ等調査・分析、関係機関との調整・PR等	→														調査・分析結果に基づく関係機関との協議を踏まえ、後年度以降に設定	・事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。 ・ただし、広大な貯木場の利活用は岸和田市の産業やまちの活性化に大きく寄与すると思われるため、令和3年度のビジョン策定後の継続的な取組が必要であり、アウトプットの設定等の検討が必要である。		
			貯木場利活用ビジョン策定	→																	
28	まちの拠点形成プロジェクト	山手地区のまちの姿を検討	地域の拠点づくり構想検討業務	→														住民による地域のまちづくりを考える検討会の開催回数(参加人数) 2回(31人)(H27) 6回(66人)(H28) 9回(72人)(H29) 4回(40人)(H30) 21回(209人)(H30累計) 7回(52人)(R1) 8回(123人)(R2) 45回(525人)(R4累計)	・KPIを達成に向けた各年の進捗状況が評価できる。 ・引き続き地域との協議を進めていくことが重要である。 ・今後は事業の具体化と合わせてアウトカム視点でのKPI設定の検討も必要ではないか。		
			地域のエリアマネージメント方策検討業務	→																	
29	まちの拠点形成プロジェクト	泉州山手線沿道のまちの姿を検討	沿道まちづくり方針の策定	→														地元関係者等への意見聴取、ワークショップ等の開催 3回(H27) 9回(H28) 11回(H29) 10回(43人)(H30) 43回(H30累計) 13回(R1) 8回(R2) 60回(R4累計)	・KPI達成が評価できる。 ・泉州山手線の延伸など事業の具体化に合わせたアウトカム視点でのKPI設定の検討も必要ではないか。		
			沿道まちづくり構想の策定(まちづくり基本調査など)	→																	
			事業化に向けた具体的な検討(区画整理事業調査など)	→																	
30	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	創業しようという者を支援	創業時の店舗等改装工事を補助	→														創業実現件数 11件(H27) 13件(H28) 12件(H29) 5件(41人)(H30) 11件(R1) 16件(R2) 100件(R4累計)	・ビジネスサポートセンターにおける支援とも重点的に連携し、KPIの達成に向け取り組む必要がある。		
			商工会議所による創業支援(創業セミナー、創業個別相談の実施)の実施	→																	

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間								KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)										
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)		目標値 (年度)									
31	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	市内企業への就労機会の拡大	関係機関との連携による地元企業説明会の実施																合同企業説明会参加者数	-		51人 (H28)	68人 (H29)	35人 (H30)	41人 (R1) 195人 (R1累計)	200人 (R1累計)	・人材育成、雇用創出など継続した取組が必要である。			
			ハローワークとの連携による就職面接会の実施																	就職面接会による就職者数	-					実施なし		45人 (R4累計)		
32	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	青年新規就農者の育成	農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金)を給付																給付金申請者数	0人 (H26)	7人 (H27)	9人 (H28)	11人 (H29)	11人 (H30)	12人 (R1)	10人 (R2)	8人/年	・KPIを達成していることが評価できる。 ・アウトカム視点でのKPI設定の検討が必要ではないか。(例.制度を利用した新規就農者(定着指数として)で離農者数=0を目標値として設定など)		
33	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業振興制度の活用を促進	国・府・市支援制度一覧表作成																企業支援メールマガジンの登録事業者数	100社 (H28)		100社 (H28)	109社 (H29)	198社 (H30)	200社 (R1)	213社 (R2)	235社 (R4)	・KPIを達成に向けた各年の進捗状況が評価できる。 ・引き続き事業の継続が重要である。		
			支援制度説明会等のセミナー開催																											
			企業支援メールマガジンの配信																											
34	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業人材の確保・育成と企業の経営改善支援	合同企業説明会等参加支援、及び市内企業が研修会等を開催または受講する際の費用を助成																市外の合同企業説明会参加企業数	-		1社 (H28)	1社 (H29)	0社 (H30)	1社 (R1)	0社 (R2)	32社 (R4累計)	・事業者の課題解決件数が目標を大きく上回っていることが評価できる。 ・ビジネスサポートセンター支援による創業件数・課題解決件数・支援件数・相談リポート率の実績について今後も注視していく必要がある。		
																				人材育成取組事業所の数	-		3社 (H28)	3社 (H29)	3社 (H30)	4社 (R1)	4社 (R2)		52社 (R4累計)	
			ビジネスサポートセンターの設立運営(ビジネスサポートセンター創設による岸和田イノベーション促進事業)																		ビジネスサポートセンター支援による創業件数						0件 (R1)		7件 (R2)	25件 (R4累計)
																					ビジネスサポートセンター支援による課題解決件数						6件 (R1)		180件 (R2)	61件 (R4累計)
																			ビジネスサポートセンター支援件数						121件 (R1)	999件 (R2)	1,054件 (R4累計)			
																			ビジネスサポートセンター相談リポート率						75.5% (R1)	71.1% (R2)	77.5% (R4)			
35	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	「岸和田ブランド」品の販売促進	岸和田ブランドの販路拡大																催事等への出展回数	-	7回 (H27)	13回 (H28)	17回 (H29)	19回 (H30) 56回 (H30累計)	17回 (R1)	4回 (R2)	80回 (R4累計)	・新たに取り組んでいるネットやSNSにおいて、SNSからHPへ誘導したHP閲覧者数やいいねの数などをKPIとして追加検討が必要ではないか。		
36	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	シティセールスの推進	今後のシティセールスの方向性の整理																「居注意欲度」府内順位	13位 (H26)		18位 (H28)	11位 (H29)	8位 (H30)	13位 (R1)	24位 (R2)	5位 (R4)	・対外的な居注意欲度の府内順位の低下や、岸和田市は誇れるまちであると感じている市民の割合が基準値より低下している。KPIについて、本事業以外の影響も大きく受けると思われるため、シティセールス方針に基づいた事業(定住人口の増加や岸和田市のイメージアップのためYouTube動画による魅力発信強化など市内外に向けたPR)の効果測定できる中間アウトカムの設定の検討も必要ではないか。		
			「岸和田市シティセールス方針」に基づいた事業の推進																	岸和田市は誇れるまちであると感じている市民の割合	53.5% (H27)	52.8% (H28)	53.4% (H29)	50.2% (H30)	50.9% (R1)	49.1% (R2)	48.1% (R3)		55.0% (R4)	
37	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	市民みんなで岸和田をPR	職員によるSNSを活用した情報発信																Instagram投稿写真等に付けられた「いいね！」の数	-								24,000件/年	・ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてInstagramに投稿された写真等のKPI達成が評価できる。 ・情報発信については積極的に実施しており評価できるが、「いいね！」の数が達成できていない。さらなる積極的な活用を検討が必要である。 ・ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてInstagramに投稿された写真等の数の目標値の上方修正の検討が必要である。 ・Instagramの活用は、主に若者向けにも有用であり、さらなる積極的な活用が望まれる。	
			市民によるSNSを活用した情報発信の促進																											ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてInstagramに投稿された写真等の数
																									1,380件 (H29)	2,761件 (H30)	2,636件 (R1)	2,108件 (R2)		

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)						
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (年度)								
38	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	きしわだアートプロジェクトの推進	アートによるまちの魅力創造	→										事業の参加者のうち、ターゲットとなる年代の人数	357人 (H26)	573人 (H27)	5,833人 (H28)	367人 (H29)	715人 (H30)	471人 (R1)	326人 (R2)	500人 (R4)	・アウトカム視点でのKPI設定(参加者の満足度)は評価できる。今後も実績について注視していく必要がある。					
			アウトリーチのしくみづくり	→										参加者の満足度	93% (H30)	91% (H27)	94% (H28)	99% (H29)	93% (H30)	91% (R1)	91% (R2)	95% (R4)						
			人材の育成	→										事業実施回数	-	3回 (H27)	3回 (H28)	4回 (H29)	8回 (H30)	7回 (R1)	2回 (R2)	2回/年						
39	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	スポーツ振興の推進	岸和田市スポーツ推進計画の策定	→										週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合	32.9% (H26)	32.5% (H28)	32.2% (H29)	31.3% (H30)	31.8% (R1)	34.8% (R2)	32.1% (R3)	45.0% (R4)	・1年延期され2022開催予定のワールドマスターズを契機にKPIを達成できるような事業の取組や情報発信方法などの検討が必要である。またワールドマスターズ以降についても実績について注視していく必要がある。					
			計画に基づく事業の実施	→																								
			ワールドマスターズの大会競技(自転車競技(BMX))の誘致	→																								
			大会競技開催に向けた準備(受入れ体制構築や情報発信等)	→																								
40	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	豊かな海や陸の啓発・普及と保全	多様な生物の調査・研究と資料収集の実施	→										多様な動植物が生息していると感じている市民の割合	-	/				22.5% (R1)	25.4% (R2)	23.8% (R3)	24.0% (R4)	・ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。				
			豊かな自然の価値を周知する展示・普及活動の実施	→										特別展・企画展の入場者数	-					9,063人 (H30)	8,758人 (R1)	5,460人 (R2)	10,000人 (R4)					
			館外活動(派遣含む)参加者数	-	4,700人 (H30)	4,318人 (R1)	1,129人 (R2)	5,000人 (R4)																				
41	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	まち歩き観光の推進	だんじり3D映像の作成	→										だんじり会館来館者数	36,433人 (H26)	36,394人 (H27)	31,712人 (H28)	34,415人 (H29)	32,831人 (H30)	33,412人 (R1)	11,950人 (R2)	37,000人 (R4)	・コロナ禍において、ターゲットを国内顧客などに絞るなど令和2年度も0コースであった着地型観光のコースを形成し、岸和田市への観光者を増加させることが求められる。					
			動画等を活用したPRの実施	→										岸和田城入場者数	43,397人 (H26)	41,345人 (H27)	38,165人 (H28)	41,565人 (H29)	38,500人 (H30)	43,397人 (R1)	25,212人 (R2)	50,000人 (R4)						
			近隣市町等との連携で実施する観光情報発信や受入環境整備等による誘客促進(KIX泉州ツーリズムビューロー連携事業)	→										着地型観光のコース形成	0コース (H28)	/				0コース (H29)	0コース (H30)	0コース (R1)		0コース (R2)	5コース (R4)			
42	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	インバウンド観光の推進	インバウンド誘致観光動画の作成	→										岸和田城におけるインバウンド入場者数	2,261人 (R1)					/				2,261人 (R1)	137人 (R2)	10,000人 (R4)	・新型コロナウイルス感染症の影響を受け海外からの観光需要が見込めないため、今後は圏域内の旅行者にターゲットを絞った取組やその方たちから情報発信をしてもらえるような取組の検討が必要である。	
			効果的な集客のための調査・検証及び試行	→										訪日外国人における泉州の認知度	14.8% (H28)									14.8% (H28)	13.0% (H29)	/		
			情報発信による認知度のさらなる向上	→										泉州地域の訪日旅行者数(単位:万人)	159万人 (H29)	159万人 (H29)	197万人 (H30)	392万人 (R1)	未取得 (R2)					420万人 (R4)				
			訪日旅行者の泉州地域の来訪者満足度(単位:ポイント)	5.2ポイント (H29)	5.2ポイント (H29)	6.2ポイント (H30)	6.5ポイント (R1)	6.2ポイント (R2)	7.0ポイント (R4)																			
43	地域の安心・安全プロジェクト	防犯カメラの設置	防犯カメラを設置する町会等への補助	→										防犯カメラの設置箇所	72箇所 (H26)	112箇所 (H27)	167箇所 (H28)	220箇所 (H29)	272箇所 (H30)	324箇所 (R1)	379箇所 (R2)	327箇所 (R4)	・継続的な取組によるKPI達成が評価できる。 ・本取組が犯罪への抑止力となっていると考えられることから、新たなKPI指標として刑法犯罪検挙件数などの設定が検討可能ではないか。					

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)		
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	目標値 (年度)				
44	地域の安心・安全プロジェクト	市内木造住宅の耐震化	耐震化に関する啓発・広報活動	→										耐震診断補助戸数	69戸 (H26)	66戸 (H27)	80戸 (H28)	43戸 (H29)	73戸 (H30)	29戸 (R1)	40戸 (R2)	50戸/年	・引き続き事業の継続が重要である。	
			耐震診断・耐震改修工事費に対する補助金の交付	→											耐震改修工事(耐震シェルター含む)補助戸数	24戸 (H26)	29戸 (H27)	27戸 (H28)	16戸 (H29)	15戸 (H30)	18戸 (R1)			12戸 (R2)
			耐震シェルター設置費に対する補助金の交付	→										ブロック塀等撤去補助件数		/				28件 (H30)	39戸 (R1)	36戸 (R2)		50件/年
			旧耐震基準(昭和56年5月以前)の木造住宅の除却費に対する補助金の交付	→																				
			岸和田市住宅・建築物耐震改修促進計画 第2期の策定	→																				
			ブロック塀等の撤去に対する補助金の交付	→																				
45	地域の安心・安全プロジェクト	空家等対策の推進	空家等対策計画の策定	→										空家相談件数に対する是正率	56.8% (R1)	/				56.8% (R1)	61.1% (R2)	60% (R4)	・空家の利活用という視点では、宅建協会と連携して売却と活用のマッチング相談会を実施しており、利用件数も多い。売却につながったのは1件のみとのことであるが、その他、セミナーも実施しており、必要な取組を実施していると見受けられ、実施していることのアピールをもっとした方がよい。 ・今後、計画の更新にあたってKPIの再検討の際にはマッチングは有効なものであるため、その数字自体をKPIとしてはどうか。 ・まずは相談件数をはじめ、契約数など改善に結びついた指標以外にも、わかりやすいものとしてセミナー参加者数や、理解が深まった人の割合などを検討してもらいたい。	
			岸和田市空家等対策協議会の事務	→												不良空き家除却補助件数	7件 (R1)	/						7件 (R1)
			空家等の適正管理及び活用の促進	→																				
			特定空家等の判断及び措置	→																				
			不良空き家の除却費に対する補助金の交付	→																				
46	地域の安心・安全プロジェクト	マンションの管理適正化の推進	岸和田市マンション管理適正化推進計画の策定および進捗管理	→										市内の分譲マンション所有者、管理組合員のマンション管理適正化推進計画の認知度	/								後年度以降に設定	・計画策定事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。
			マンション管理に関する相談会や電話相談での対応件数																					
47	地域の安心・安全プロジェクト	地域の自主防災力の向上	防災福祉コミュニティの活動支援	→										防災福祉コミュニティ主催地域防災訓練実施割合	78.7% (H27)	78.7% (H27)	75.4% (H28)	65.2% (H29)	52.8% (H30)	55.7% (R1)	5.6% (R2)	100% (R4)	・ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しており、継続的な取組が必要。	
			防災資機材の整備に対する補助金の交付	→																				